

第5章 学校における実践事例

問題を見付け、自分を見つめ、地域に働きかける「ドリームタイム」

北海道札幌市立資生館小学校

北海道札幌市中央区南3条西7丁目

電話番号：011-204-9811

HP アドレス：<http://www.shiseikan-e.sapporo-c.ed.jp>

(1) 学校規模

児童数 639 名、教職員数 50 名、学級数 22 学級

(2) 学校の教育活動の特色

本校は、平成 16 年 3 月、札幌市の都心部に存在した歴史と伝統のある 4 校が統合し、新たに誕生した。北海道開拓使に置かれた札幌最初の学校「資生館」の名と、開拓使時代のフロンティア精神を受け継いだ学校である。開校以来、確かな学びと共に生きる力を育み、一人一人の児童の「夢かなう学校」づくりを目指している。

(3) 地域の特徴

札幌の中心に位置し、観光スポットや札幌を代表する施設などが多数存在する。北海道を代表する歴史的な建造物なども近くに存在する。

うな単元を構成し、その中で、自ら課題を見付けていく学習の過程を大事にしている。地域の様々な人とのかかわりにも重点を置くことで、多様な考え方にふれ、学習を通して、自己の生き方に目を向ける児童を育てる。

2. 育てようとする資質や能力及び態度

育てたい力として、次の 3 つの力を設定している。

【問題を見付け追究する力】

問題の発見、情報の収集、情報の整理や分析、考えの表出など、主に学習に関する資質や能力を高める。

【自分を見つめる力】

自分の行動を意思決定する、自分の生活や生き方を考えるなど、主に自分自身を見つめる態度を育てる。

【自分から働きかける力】

他者や社会に進んでかかわり、他者と協同して学ぶ能力や社会活動に参加する態度を育てる。

3. 内容

地域への愛着や誇り、夢を育む「ふるさと」、コミュニケーションを通して、命や生き方を見つめ直す「いのち」、自分を取り巻く食や健康、生活の問題を見つめ直す「くらし」の 3 つのテーマを設けている。これらは、いずれも、地域の特色や児童の実態、総合的な学習の時間で学ぶことが期待される学習課題をもとに考えられて

I 総合的な学習の時間の全体計画

1. 目標

各教科等で学んだ知識や技能を発揮しながら、各学年に応じた課題を追究していく学びを展開することで、生きて働く総合的な知を育むことをねらっている。併設される複合施設での継続的なかかわりや、近隣の施設や歴史的建造物へのかかわりなど、対象へ深くかかわるよ

いる。

4. その他の特色

上記3つのテーマのうち、「ふるさと」と「いのち」は、本校の立地条件や複合施設である校舎の特色を生かした学習を展開している。

「ふるさと」では、「狸小路商店街」「時計台」「市電」など身近にある対象から課題を見付け、

ふるさと札幌への愛着や誇り、将来への夢を育むことに重点を置いている。「いのち」では、複合施設の「子育て支援総合センター」や保育園へ来る人とのかかわりから、その存在意義を考えたり、自分の生活や生き方を考えたりしている。また、「雪」をテーマにした単元の開発をしているところである。

<全体計画>

目 標	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の特性や学校の特性を系統的・発展的に扱い、地域の教育力（地域人材）を有効に活用しながら、各教科等で得た知識や技能を発揮し、伸張していく。 ○指導体制の工夫や教材開発など、教師の指導力を発揮しながら、各学年に応じた課題を、児童一人一人が追究していく学びを展開することで、「生きて働く総合的な知」を育む。 	
育 て た い 力	<p>【問題を見付け追究する力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の身近な「人・もの・こと」から問題を見いだす。 ○具体的な事象を比較したり関連付けたりして、問題を見いだしていく。 ○知識や技能を、目的や状況に応じて効果的に活用し、問題を解決する。 ○目的に応じて情報を集め、調べ、整理し、分かりやすく表現する。 	評 価 の 観 点
	<p>【自分を見つめる力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の行動や態度、自分自身の内面や価値観の変化・変容を振り返り、自己肯定観をもつ。 ○知識や技能等の定着や充実、有効観を実感する。 ○見通しや目的をもち、その実現に向けて自分の行動を意思決定する。 ○次の目標としての自分像を考え、生活や生き方について考える。 	
	<p>【自分から働きかける力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○身近な人々や社会、自然に関心をもち、意欲的にかかわろうとする主体的・創造的な態度をもつ。 ○目的に応じて自分から新たな情報を求め、自分から働きかけようとする。 ○探究活動において、他者と協同して取り組む。 ○他者や社会とのつながりを求め、協力して地域活動に参加する。 	

テーマ	ふるさと 地域への愛着や誇り、夢を育む	いのち コミュニケーションを通して命 や生き方を見つめ直す	くらし 自分を取り巻く食や健康、生活 の問題を見つめ直す	資 生 館 雪 まつ り (冬を仲間と楽しむ) (施設内や地域の方と交流を図る)
ねらい	地域の「人・もの・こと」を取り上げ、その社会的意味や価値に気付かせる。地域の特色やよさにふれ、地域への愛着や誇り、将来への夢を育む。	複合施設の特色や地域の特色を生かし、施設内の人や地域の人とのコミュニケーションを通して命を感じたり、自分の生活や生き方を考えたりする。	自分を取り巻く食や健康、資源やエネルギーの問題について主体的に考え、将来に向けてよりよく解決する。	
意図	地域の実態に応じた横断的・総合的な学習 ・地域との連携 ・教科等との関連を重視 *「地域の文化や伝統」に関する学習活動を取り入れることもできる。	複合施設の活用 ・他施設との連携 ・道徳や特別活動との関連を重視 ・保健体育や理科との内容的な関連 ・複合施設内の人々とのかかわりを重視	今日的課題についての問題解決的学習 ・「食育」「健康」「環境・資源エネルギー教育」にかかわる学習活動から生活改善へ ・保健体育や家庭科との内容的な関連	
学習活動				
3年	たぬきこうじ探検隊	かえで学級と友達になろう	みんな食べる資生館っ子	
4年	わたしの自慢時計台のある街札幌	子育て支援総合センターを知ろう	くらしを支える資源とエネルギー	
5年	市電の走る街 札幌	しせいかん保育園を知ろう	家族とともに「生活改善」大作戦	
6年	札幌いいまちプロジェクト	赤ちゃんってすごい!	私たちの暮らしと環境	

※指導方法、指導体制については、年間指導計画等に表示している。

II 総合的な学習の時間の実践事例

第5学年 「『市電の走る街 札幌』～市電の今・昔・未来は?～」

1. 年間指導計画

本校5年生の総合的な学習の時間「ドリームタイム」では、【問題を見付け追究する力】【自分を見つめる力】【自分から働きかける力】を育てるために、年間を通して3つのテーマに応じた、3つの単元を設けている。その概要は以下の通りである。

テーマ	くらし 時期：4月～7月	ふるさと 時期：8月～11月	いのち 時期：11月～2月
単元名	家族とともに考えよう！ 「生活改善」大作戦	市電の走る街 札幌 ～市電の今・昔・未来は～	しせいかん保育園を知ろう
単元の要素	自分のスケジュールをもとに、食事・運動・睡眠について課題を見付け、家族の人と相談しながら生活を改善していく単元。	市電の乗車体験や交通資料館見学などを通して、課題を見付け、市電の今・昔・未来について考え、自分たちにできることを発信する単元。	複合施設である本校の特色を生かし、1階に併設している「しせいかん保育園」の園児との交流を通し、人のかかわりやいのちの大切さについて考える単元。

2. 単元計画

(1) 単元設定の理由

本校のすぐ横を走っている市電（路面電車）。児童は、なにげなく市電を目にし、その存在は意識している。しかし、地下鉄や自動車の普及により路線が縮小されてきたことや、近年廃止存続論が持ち上がったことなどは、ほとんど知られていない。そんな市電は児童の疑問を多く含んでいるすばらしい教材である。市電の今と昔を探り、未来はどうあるべきか考えることで、課題を見付け追究していく資質や能力を育て、自分にできることを考えさせたい。そんな願いを込めて本単元を設定した。

また、札幌市役所交通企画課の厚意で児童の市電に対するプランを市役所に提案する機会を設けた。自分のプランが、今後の市電に影響するかもしれないことを知り、児童が本気で学習に取り組むことをねらった。そうすることで、児童に社会参画への態度を育て、ふるさと札幌への愛着や誇りをもたせたいと考えた。

(2) 単元の目標

- 体験や交流活動をもとに、自ら課題を見付け追究したことを表現する。
- 市電に対する思いを深め、根拠をもとに自分なりの考えをもつ。
- 友達との意見交流を通して、市電に対する見方や考え方を広げる。

(3) 単元の評価規準

- 市電の今・昔・未来について自ら課題を見付け、見通しをもって解決している。
- 市電に関して追究することで、市電の走る我が街に愛着をもち、自分たちにできることを考えている。
- 学級の友達や校外の方との交流を通し、市電に対する情報を得ることで自分の考えを深め広げている。

(4) 単元の指導計画 (25 時間扱い)

学習活動のねらい	学習活動	構成のポイント								
<p>[市電との出会い] ～5時間 乗車体験によって市電に関するはてなをもつ。</p>	<p>市電ってどんなもの</p> <p>市電ウォッチング</p> <p>市電に乗ってみよう！【乗車体験】</p> <p>市電って面白い！ はてながいっぱいだ！</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校の横を走っている市電をよく観察させ、市電に対する思いを膨らませる。 								
<p>[市電の今・昔をさぐる！] ～10時間 自ら課題をもち資料とのかかわりによって課題を解決しようとし、新たな課題を見付ける。</p> <p>交通資料館見学によって、市電の歴史について興味をもって調べようとする。</p>	<p>市電を調べよう！（今・昔）</p> <table border="1" data-bbox="480 584 1145 663"> <tr> <td>車両のことを調べたい</td> <td>運転手さんのことを！</td> <td>お客さんのことを！</td> <td>路線と運行について</td> </tr> </table> <p>電車事業所へ行って係の人に聞いてみよう！【共通体験】</p> <table border="1" data-bbox="480 775 1145 887"> <tr> <td>昔と今では収入が減っている</td> <td>昔は車が少なかった</td> <td>昔の乗客数は？</td> <td>昔の路線は？</td> </tr> </table> <p>市電の昔が分かる交通資料館へ行ってみよう！【共通体験】</p> <p>昔は、たくさんの市民が市電を利用していたんだ！地下鉄が普及してから、路線はどんどん縮小されてきたんだ！連結車両があったんだ！</p>	車両のことを調べたい	運転手さんのことを！	お客さんのことを！	路線と運行について	昔と今では収入が減っている	昔は車が少なかった	昔の乗客数は？	昔の路線は？	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人との対話によって課題をつかませる。 課題の解決に向けて必要な資料や詳しい人などを紹介し、自ら追究できるように、支える。 資料館にある実物の資料をもとに市電の歴史をつかませる。
車両のことを調べたい	運転手さんのことを！	お客さんのことを！	路線と運行について							
昔と今では収入が減っている	昔は車が少なかった	昔の乗客数は？	昔の路線は？							
<p>[市電の10年後はどうなってる？] ～10時間 市電の昔と今を踏まえ、今後の市電について自分の考えをもつことができる。</p> <p>市電の未来を考えるための幅の広い課題を見付け追究する。</p> <p>市電プランを提案することで、社会への参画意識をもつ。</p>	<p>市電の10年後を考えよう！</p> <p>10年後、市電は残っている・なくなっている</p> <table border="1" data-bbox="480 1279 1145 1424"> <tr> <td> 残っている ・電気で走るのでエコ ・老人にもやさしい ・北海道遺産になっている </td> <td> なくなっている ・どんどん路線は縮小 ・地下鉄の方が便利 ・収入が減っている </td> </tr> </table> <p>市役所の方のお話を聞いてみよう！</p> <p>市役所の方のお話 経営状況は決して明るくない。市電をどう残していくか市役所でも平成21年に考えをまとめます。みなさんのアイデアを募集します！</p> <p>10年後に市電が走っているためのプランを考えよう『市電プラン2018』</p> <table border="1" data-bbox="480 1727 1145 1805"> <tr> <td>・札幌駅に つなごう</td> <td>・環境にや さしい</td> <td>・貸切電車 の企画</td> <td>・快適に乗れ るサービス</td> </tr> </table> <p>『市電プラン2018』を札幌市役所に提案しよう。</p> <p>未来の市電のために真剣に考えることができたよ 来年の札幌市路面電車計画が楽しみだな！ 今のぼくらにできることをやっつけていこう！ ぼくらの街を走る市電をこれからも見守っていきたい！</p>	残っている ・電気で走るのでエコ ・老人にもやさしい ・北海道遺産になっている	なくなっている ・どんどん路線は縮小 ・地下鉄の方が便利 ・収入が減っている	・札幌駅に つなごう	・環境にや さしい	・貸切電車 の企画	・快適に乗れ るサービス	<ul style="list-style-type: none"> 追究したことを生かして友達の考えにふれることで、新たな見方や考え方に気付かせる。 市電の未来を考えるための根拠になる課題を見付けさせる。 市電未来プランを札幌市に提案することで、社会への参画意識をもたせる。 		
残っている ・電気で走るのでエコ ・老人にもやさしい ・北海道遺産になっている	なくなっている ・どんどん路線は縮小 ・地下鉄の方が便利 ・収入が減っている									
・札幌駅に つなごう	・環境にや さしい	・貸切電車 の企画	・快適に乗れ るサービス							

3. 学習活動の実際

市電ウォッチング

★まずはじっくりと対象に向き合う

学校の近くを走っている市電。児童は知っているようであり、あまり知らない。そんな市電をよく観察する「市電ウォッチング」に取り組んだ。



まずは、じっくりと対象に向き合うことが大切である。普段何気なく見ていた市電もよく観察するとたくさんのはてなや発見が隠れていた。

はてな	発見
<ul style="list-style-type: none"> 番号は何のため？ ワンマンって何？ 何人乗りなの？ なぜ広告？ マークの意味は？ 	<ul style="list-style-type: none"> いろんな種類の電車があるよ。 古い市電M 101 ドアが両開きドアだった！

学級の仲間で、話し合ったり調べたりしながら解決できるはてなは、どんどん解決していった。わかったことや発見が増えてきて、児童はだんだん楽しくなっていった。「もっといろいろ知りたい！」「まだ、乗ったことがないよ」「みんなで市電に乗ってみよう」ということで、乗車体験へとつながっていった。

市電乗車体験

クラスごとに分かれ、市電に乗車。景色に興味をもった子。運転手さんに興味をもった



子。料金が気になった子。共通体験によって、市電の話題が教室にあふれていった。

★共通体験をもとに仲間と交流

そんな中、乗客のおじいさんと会話をしている子がいた。「昔は市電で、遠くまで行けて便利だったんだよ。」そんなおじいさんからの情報

を教室でみんなに報告した。

「昔の市電はどこまで行けたんだろう？」

「昔の市電はどんな形をしていたのかな？」市電の昔に興味を膨らんでいった。

市電の昔を探ろう！

★人に聞いてみる。実物に触れる。

地下鉄が開通する前、市電の路線は現在の3倍（24km）もあった。札幌の中心部から郊外まで市電でいくことができたのだ。たくさんの客をスムーズに乗せるため、ドアが両開きになっていた

り、2台が連結している親子電車もあった。

しかし、自動車の普及や地下鉄



が開通したことでどんどん路線は縮小され、現在では8kmになってしまった。

そんな、市電の歴史を電車事業所の方の話や



交通資料館の見学から児童は探っていた。

資料館では昔の市電の写真や親子電車の実

物に触れながら、現在の姿と昔の姿を比較することで理解が深まった。



市電の今・昔を整理しよう！

★一言で表そう！

今まで調べてきた市電の今・昔の情報を大きなカードに整理した。その中に【市電は○○だ！】と一言で表現するコーナーを設けた。すると、児童の市電に対する見方や考え方が端的に表れ、市電への理解が広がっていった。

- 市電は老人の宝だ。
- 市電は危機だ。
- 市電はエコだ。
- 市電は絶対必要だ。

【Nさんのカードより】

私は最初に市電の距離を調べていましたが、1番長い時で昭和41年の24.95kmで、今と比べたらぜんぜん違いました。そうやって距離のことを調べていくうちに他のことも気になって「どうして路線が短くなったのか？」「馬鉄の始まったときは？」といろいろつながって、はてなはずごいなと思いました。

市電の未来を考えよう！

★一人一人の追究が生きる協同的な学び

市電が盛んに利用されていた昔。縮小されている今。そして、未来はどうなるのだろうか？10年後の市電について考えてみた。「お年寄りによく利用されているから10年後も残っている」「赤字経営だからなくなっている」など、

今まで調べてきたことを根拠に、活発な意見が交わされた。

話合いが進んでいくうちに、市電を絶対残したいという強い思いが膨らんできた。そして、市電を運営している、札幌市役所の方と会って話をうかがうことにした。

市役所の方からのお願い

市役所交通企画課の担当者から市電の現状を聞いた。そして、「来年、札幌市として市電の在り方



をまとめることになっている。皆さんのアイデアを募集したい。」というお願いをされた。

すると、「自分たちの考えが活かされるかもしれない」と、児童たちのやる気がさらに大きくなっていった。

「市電プラン2018」を提案

10年後も元気に市電が走っているために「市電プラン2018」を考えた。それは、夢物語ではなく実現可能なプランになるように目指した。そして、「路線拡大プラン」など18のプランを市役所で役員さんに提案することができ、児童の社会参画意識が高まった。



○平成22年1月の新聞に札幌市電延伸の記事が載り、児童の充実感につながった。



これからの自己の生き方を考え、生活化・行動化を目指す「わかばタイム」

宮城県仙台市立広瀬小学校

宮城県仙台市青葉区下愛子字二本松 40

電話番号：022-392-2208 FAX：022-392-7537

E-mail：hirose@sendai-c.ed.jp HP アドレス：http://www2.sendai-c.ed.jp/%7Ehirose/

学校や地域に関する情報

(1) 学校規模

学校の概要（平成 22 年 3 月 1 日現在）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別 支援	計
学級数	3	3	3	3	3	3	2	20
児童数	93	102	115	114	102	110	8	644

教師数 31 名

(2) 学校の教育活動の特色

平成 20 年度から、国立教育政策研究所より「学力の把握に関する研究指定校」の 3 か年指定を受け、生活科と総合的な学習の時間における評価の開発に取り組んでいる。研究指定を受けたことをきっかけに、児童の気付きを高め、生活に生かすための生活科、1 年間 1 大単元による学びのある総合的な学習の時間づくりを目指している。

(3) 地域の特徴

仙台市中心部より西に約 10 k m に位置する本校は、南には蕃山が広がり、北側には広瀬川が流れるなど、自然豊かな場所に位置している。また、高等専門学校や市の文化センターなど教育関係施設が充実しているなど、学習材が豊かである。

I 総合的な学習の時間の全体計画

1. 目標

自然が豊かで歴史があり、学習材が豊富であるという地域の特性を生かし、それらに触れたりそれらにかかわる人と出会ったりする学習を行い、それらを通して、総合的な学習の時間において、自ら課題を見付けたり最後まで追究したりといった主体的に学習に取り組もうとする

態度を育みたい。また、学んだことを普通の生活やこれからの生き方につなげたいと考え、目標を設定した。

2. 育てようとする資質や能力及び態度

問題を解決する力の①課題設定力と②追究する力については、自ら課題を見付け、解決のために意欲的に調べるなど主体的に問題を解決することが苦手な児童の実態を受けて設定した。

③表現力とかかわり合う力については、自分の考えや思いを伝えることが苦手であるという児童の実態を受け、伝え合う力を育てることに取り組んだ校内研究を継続する形で設定した。自分の生き方を考える力については、学んだことを普通の生活に生かしたり、自分の将来について考えるようになったりするという総合的な学習の時間を通して最終的に目指す姿を明確にして指導にあたるために設定した。

3. 内容

全体計画に示した学習内容は、地域の特色を生かし、これまで本校で実践してきた内容をもとに設定した。学年ごとの学習内容については固定的な設定をせず、担当学年で年度初めに設定している。学習内容の設定にあたっては、児童のそれまでの学びの履歴や興味・関心、担任の思いなどを生かしている。学年間の学習内容の重複を避け、系統的な学習を成立させるために、内容系列表を作成し、各領域の目標と内容をもとに、3・4年生で扱う内容、5・6年生で扱う内容を段階的に示し、そこから設定するようにしている。

4. その他の特色

・地域の人材をゲストティーチャーとして積

極的に活用する。

- ・ワークショップ研修を重視する。
- ・学年による取組を基本とし、学年内の連携と

担任外の教職員による支援体制を確立する。

- ・学びの足跡が分かる「わかばマップ」を開発し、評価に生かす。

〈全体計画〉

平成21年度「総合的な学習の時間（わかばタイム）」全体計画

仙台市立広瀬小学校

□育てたい児童像（ゴールイメージ）
 ・自分で考え、自分で行動し、最後までやりとげることができる児童。
 ・自分の思いや考えを相手に伝えることができる児童。

■総合的な学習の時間の目標（学習指導要領第5章第1）
 横断的・総合的な学習や探求的な学習を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、死体的に判断し、よよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

□学校の教育目標
自分を拓き強く生き抜く力を持つ地球人の育成
 思いやりの たくましい 自ら学ぶ
 ある子ども 子ども 子ども

◇教科との関連
 ◇各教科においても、「育てようとする資質や能力及び態度」を意識した指導に取り組む。
生活科
 ・具体的な活動や体験を通して、自分を身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもつ。
国語科
 ・伝え合う力を高める。
社会科
 ・我が国の国土と歴史に対する愛情を育てる。
算数科
 ・筋道を立てて考え、表現する能力を育てる。
理科
 ・問題解決の能力を育てる。

□本校における総合的な学習の時間「わかばタイム」の目標
 地域の事象や生き方に関する探求的な学習を通して、主体的に学習に取り組み、粘り強く追究しようとする態度を育成するとともに、自己の生き方を考えることができるようにする。

◇特別活動との関連
学級活動
児童会活動
クラブ活動
 ・望ましい人間関係の形成。
 ・協力して諸問題を解決したり、参画したりする自主的、実践的な態度を育てる。
学校行事
 ・望ましい人間関係の形成。
 ・協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。
 ・異年齢集団による交流、体験活動を充実する。
道徳との関連
 「相手の立場を理解し、励ましあう子」
 「めあてに向って最後までやりぬく子」
 「正しく判断し、進んで行動する」

◇育てようとする資質や能力及び態度

- 自分が見出した課題に対して、主体的に学び、粘り強く追究する子ども。（問題を解決する力）
- 自ら対象とかかわり、自分の考えを伝えたり相手の考えを聞いたりしながら学ぶ子ども。（かかわり合う力）
- 学んだことを生活の中に生かしたり、これからの自分の生き方を考えたりする子ども。（自分の生き方を考える力）

	3・4年	5・6年
学習方法に関する力 (問題を解決する力) ①課題設定力 ②追究する力 (情報収集力、思考・判断力) ③表現力	①生活や体験の中から、調べてみたい課題を設定する。 ②いろいろな調べ方を知り、見直しを持って進んで情報を集める。 ③自分の考えや思いを、さまざまな表現方法でまとめたり進んで伝えたりする。	①生活や体験を生かし、対比したり。選択したりしながら、自分と関連する課題を設定する。 ②調べ方を工夫し、見直しを持ちながら計画的に情報を集める。 集めた情報を整理したり分析したりしながら追究し、最後までやり遂げる。 ③自分の考えや思いを、相手に分かりやすく伝えたりする。
他者や社会とかかわりに関する力 ④かかわり合う力	④体験対象に素直にかかわり、相手の伝えたいことを寄稿とする。友達や地域の人々などとかかわり、自分のものの見方や考え方を持つ。	④体験対象に主体的にかかわり、自分とかかわりを考えながら聞こうとする。友達や地域の人々などとかかわり、自分のものの見方や考え方を深める。
自分自身に関する力 ⑤自分の生き方を考える力	⑤学んだことを自分の生活や周りの社会のために生かそうとする。	⑤学んだことを基に現在や将来の生き方を考え、実践しようとする。

◇学習内容

領域	目標
地域	自分たちが生活する地域や自然や歴史・伝統文化・地域行事・産業・地域を支える人々との関わりを通して、それらについての理解を深め、地域に愛着を持つと共に、自分が地域の一員として共に生きる存在であることに気付き、地域の一員としてよりよい郷土をつくらうとする資質や能力を育てる。
地域貢献	自分たちの住んでいる地域の自然や人々との関わりを通して、自分が地域の一員として共に生きる存在であることに気付き、地域や地域の方々のために自分ができることを考え、実践できる資質や能力を育てる。
環境	身近な自然との関わりを通して、自然の豊かさや大切さを感じ、生活と環境の関わりについて理解を深め、自分に出来る方法で環境を守ると共に、よりよい環境を創り、持続可能な社会や自然と共存することの出来る資質や能力を育てる。
国際理解	留学生や海外で活躍する人々たちの交流活動を通して、世界の国々へ関心を持ち、異文化についての理解を深め、異文化を尊重したり、分かり合い共に生きようとする資質や能力を育てる。
福祉	福祉に関わる交流活動や体験活動を通して、障がい者や高齢者などについての理解を深めると共に、相手の立場に立って行動することの大切さに気付き、共に生きようとする資質や能力を育てる。
生き方	生き甲斐を持ち様々な分野で活躍している人との出会いを通して、自分らしく生きることの良さや大切さに気付き、「これまでの自分」を振り返り、「これからの自分」の生き方を考え、実践できる資質や能力を育てる。
情報	情報の収集、選択、整理などをする学習を通して、それらを自分の生活の中に生かすことのできる資質や能力を育てると共に、責任ある情報を発信することのできる能力を育てる。

※「情報」は、この領域の学習活動との関連を図りながら、目標に迫る。
 ※学習内容の詳細は、奥表内容系列表に表示している。

◇地域との連携
 ○市民センターや地域の団体の協力により地域の人材を積極的に活用する。
 ○福祉施設等、地域の施設との連携を深め、結局的に活用する。

◇基本的な内容や方針

学習活動内容「単元」(時数)	単元のゴールイメージを明確にし、各学習段階において想定する児童の姿を「想定する知的営みの姿」として設定する。			
	3年	4年	5年	6年
地域 「大好き！ 広瀬」 (95時間)	地域 「人にやさしいまちづくり」 (100時間)	地域貢献 「広瀬サポーターズ・プラン～わたしたちが明日の広瀬をつくる～」 (95時間)	生き方 「共に生きる」 (90時間)	
指導方法	・個に応じた指導の工夫。 ・協同的な学習活動の充実。 ・言語活動による体験の意味の自覚化。			
指導体制	・地域の人材の積極的な活用。 ・ワークショップ研修の重視。 ・学年内の連携と担任外の教職員による支援体制の確立。			
学習の評価	・観点別学習状況を把握するための評価規準の設定。 ・個人内評価の重視。 ・指導と評価の一体化の充実。			

◇中学校との連携
 ○総合的な学習の時間の内容について情報交換する。
 ○小・中を通して育てたい資質や能力及び態度について意見交換する。

II 総合的な学習の時間の実践事例

第6学年 「共に生きる」

1. 年間指導計画

本校では1年間1大単元による学習活動に取り組んでいる。総合的な学習の時間において児童が本気で課題を追究し、力を付けるためには課題意識をもたせることが大切である。児童の課題意識を醸成するために共通体験の時間を十分に確保し、じっくり学習に取り組める年間指導計画としている。

指導計画(90)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	年間テーマ設定 学年テーマを決めよう(4)	共通体験 共に生きる(30)					個人課題設定 見つめようこれまでの自分(13)	追究活動 考ようこれからの自分(33) 考えを伝えよう(6)					行動化・まとめ 学習を振り返ろう(4)

<単元構想&単元評価規準表>

4 単元構想&単元評価規準表		第6学年 単元名「共に生きる」		ゴールイメージ			
視点	観点	単元の評価規準	学習活動における具体的評価規準				
学習に関すること	課題設定力	・ポントン小学校の建設に関わる人との出会いなどを通して、これからの自分の生き方に関する課題を設定し、課題意識をもつ。	①昨年度学んだことなどをもとに、今年度学びたいことについて考える。	②共通体験で出会った人たちの生き方に対する思いに気付く。 ③出会った人たちの生き方の共通点に気付く。	④アンケートなどにもとに、自分のよいところや足りないところを振り返る。 ⑤自分のよいところや足りないところや共通体験で得られた気付きを理由に、生き方に関する課題を設定する。	共に生きることの大切さなどに気付き、これまでの自分を振り返り、これからの自分の生き方を考え、今の自分にできることを実践しようとする資質や能力を育てる。	
	追究力	・自分が憧れる生き方について調べたり、自分が憧れる人たちに会ったりすることなどを通して、これからの自分の生き方を考えるために必要な情報を収集する。 ・出会った人たちや自分が調べた人たちの生き方と、これまでの自分の生活や行動を比較したり関連付けたりして、これからの生き方について考える。		①出会った人たちの生き方をもとに取り組んだことを通して、人に役立つことよきや難しさに気付く。	②自分の課題に沿って情報収集の計画を立てる。		③ホームページや書籍などから適切な方法を選択し、自分が憧れる生き方の情報を収集する ④自分の課題に迫るために、今できることに取り組み、情報収集する。 ⑤自分の課題に迫るために、夢を実現した人や自分らしく生きている人に出会い、情報収集する。 ⑥出会った人たちの共通点を見つけたら、これまでの自分の生き方と比較したりして、これからの自分に必要なことやできることを考える。
	表現力	・自分の生き方に関する追究活動をもとに、これからの自分の生き方の考えをまとめる。 ・家族や友達に、自分のこれからの生き方について考えたことを、資料を提示しながら伝える。					①自分の生き方に関する課題追究活動を冊子などにまとめる。 ②家族や友達に、自分のこれからの生き方について考えたことを、写真、図、表などを効果的に活用しながら発表する。
と	かわりに関係するこ	・ポントン小学校の建設に関わる人たちの思いを受け止め、自分の生活や行動を重ね合わせ、自分の思いや気持ちを伝える。 ・これからの自分の生き方を考えるにあたり、友達との話し合いや意見交換を行い、自分の考えを伝えたり、相手の考えを受け入れたりする		①出会った人たちの思いに気付く、自分なりの感想をもつ。 ②出会った人たちの思いの中で、さらに知りたいことや疑問などを解決する。 ③取り組みを通して感じたことや考えたことを友達に伝えたり、友達に対して自分の考えを伝えたりする。	④自分の課題を解決するために必要な情報や取り組みについて、人との出会いや友達との話し合いをもとに考えている。		
する	自分自身に関	・自分のよきや可能性に気付く、これからの自分づくりに向けて、今の自分にできることを考える。				①1年間の学習を振り返り、自分ができるようになったことに気付く。 ②これからの自分づくりに向けて、今後取り組むことについて考える。	
学習段階		年間テーマ設定	共通体験	個人課題設定	追究活動	行動化・まとめ	
想定する知的営みの姿と期待するわかばマップの内容		昨年度学んだことなどをもとに、今年度学びたいことについて考える。 	共通体験で出会った人たちの生き方に対する思いや共通点に気付いたり、出会った人たちの生き方をもとに取り組んだことを通して、人に役立つことよきや難しさに気付いたりする。 みんな誰かのために役に立ちたいという思いを持って生きている。誰かに役に立つことは気持ちいいけれども、継続するのは難しい。	これまでの自分や共通体験で得られた気付きを理由に課題設定する。 〇〇さんのように人の役に立つ生き方をしたい。 自分の良さを生かして人を喜ばせる生き方をしたい。	自分の課題を解決するために、これからの自分に必要なことやできることについて考える。 自分から人の役に立つことをする大人になりたいという課題をもって取り組んだら、自分から進んでお手伝いができるようになった。でも、授業中、自分から発言できないので、もっと発言できるようにしたい。	これからの自分づくりに向けて、今後取り組むことについて考える。 中学生になっても家族の役に立つことを続けていきたい。また、どんなことでも積極的に取り組むようにしたい。	
学習活動		・5年までの総合学習の振り返り ・今年度の教科の学習内容 ・今年学びたいこと ・今年の学年テーマ	・ポントン小学校の建設にかかわる人たちとの出会い ・出会いの振り返り ・夏休みの取組と振り返り	・これまでの自分の振り返り ・課題の設定 ・活動計画づくり	・自分がない生き方に関する情報の収集(ホームページ、書籍、人との出会いなど) ・自分のできることへ取組 ・取組の振り返り ・これからの自分の生き方を考える ・まとめの作成、発表会	・学んだことや身に付いたことの振り返り ・卒業式での決意表明	

第5章

2. 単元計画

(1) 単元設定の理由

5年生で児童は伝統芸能や歴史など地域の良さに触れたり、障がいをもった人や高齢者と触れ合ったりすることを通して、地域に目を向け、誰でも住みやすい地域について考えた。そして、よりよい地域づくりのために自分たちができることに取り組み、人の役に立つ喜びを感じることができた。

6年生の学習では、学校建設のかかわりをきっかけに児童が興味をもち始めたラオスのポンタン小学校との交流や学校建設に尽力している人との出会いなどを通して、これまでの自分を振り返り、これからの自分の生き方を見つめさせていこうと考えた。課題の設定にあたっては、共通体験の時間を十分に確保し、多様な体験活動を取り入れることにより、児童の課題意識を醸成した。また、一人一人の思いや願いを大切にすために対話の時間を十分に確保し、個に応じた課題を設定できるようにした。共通体験から課題追究の流れの中では、家族・友人・地域の人々・世界の人々など周りの人々も意識させながら、自分のこれからの生き方を意識させていきたいと考えた。

(2) 単元の目標

共に生きることの大切さなどに気づき、これまでの自分を振り返り、これからの自分の生き方を考え、今の自分にできることを実践しようとする資質や能力を育てる。

(3) 単元の評価規準

〈単元構想&単元評価規準表〉のとおり

(4) 単元の指導計画

月	学習活動(時数)	教師の指導 (方法・内容)	評価規準				評価資料	教科との 関連
			課題	学習 追究	表現	かかわ り 自分 生き方		
4	1 学年テーマを決めよう(4) ○これまでの総合的な学習の時間を振り返る。 ○教科の学習内容について知る。 ○今年学びたいことについて考える。	・昨年度の総合的な学習の時間で学んだことや感じたこと、今年の教科の学習内容などと関連付けて思いや願いを考えさせる。 ・児童の思いや願いをもとに学年テーマを決める。	①				ワークシート わかばマップ	各教科
5	○学年のテーマを知り、学習の見直しをもつ。							
6	2 共に生きる～共通体験～(30) ○AEFA職員と出会う。 ○ラオス人留学生と出会う。 ○安井清子さんと出会う。 ＜修学旅行＞	・ラオスの文化やラオス人の考え方や信念に触れたり、ポンタン小の様子を聞いたりすることで、ラオスについての理解を深めたり、ポンタンに対するイメージを広げたりさせる。 ・出会った人の生き方に触れることで、自分の生き方を考える際の参考にさせる。 ・これまで出会ってきた人々の生き方に共通することや今後継続して取り組みたいことについて考えさせる。	②			①	ワークシート わかばマップ	社会科
7	○国会議員と出会う。 ○ラオス大使館職員と出会う。 ○ラオスに関係する人たちと交流する。					②	修学旅行のしおり	
8	○自分が将来就きたいと思う仕事に触れる。(キッサニア)						ワークシート わかばマップ 発表の様子	道徳 学級活動 国語科
9	○これまでの学びを振り返る。 ○夏休みに取り組みたいことについて考える。 ○できることに取り組む。 ○夏休みの取組を振り返る。	・これまでの自分の振り返りや、友達のよいところ探しにより、自分の良いところと足りないところに気付かせる。 ・個に応じた課題が設定できるよう個別の対話に十分時間をかける。 ・活動計画を共有することで、友達がどんな願いをもちどんな活動をしようとしているのかをとらえさせる。	③	①		③		
10	3 見つめよう!これまでの自分～個人課題をつくろう～(13) ○これまでの自分を振り返る。 ○課題を設定する。		④ ⑤				ワークシート	
11	○大学生との出会いをもとに、活動計画を立てる。			②		④	わかばマップ ワークシート わかばマップ 発表の様子	
12	4 考えよう!これからの自分～課題追究～(33) ○自分のできることに取り組んだり、自分が憧れる生き方に関する情報を収集したりする。 ○取組を振り返ったり、整理したりする。 ○より深く自己を見つめ直す人と出会う。	・今の自分にできることに取り組むことなどを通して課題を追究させると共に、日々振り返りをさせる。 ・自分を高めていくような追究活動ができるよう、出会いの場を設定する。 ・これまで取り組んだことを振り返り、今後さらに必要な取組について考える。		③ ④			ワークシート	
1	○冬休みの取組について考え、実行する。 ○これまでの取組を振り返り、今後の取組を考え、実行する。	・取組の振り返りや身近な人からのメッセージなどをもとに、これまでの自分と今の自分を比較し、成長を自覚して自分の考えをまとめさせる。 ・まとめ方の例を挙げる。		⑤		④	わかばマップ 発言・行動 観察	学級活動
2	○1年間の取組を振り返り、これからの自分の生き方を考える。 ○まとめを作成する。			⑥			わかばマップ ワークショップ	国語科 算数科 社会科
3	5 考えを発表しよう(6) ○まとめたことを発表する。	・1年間のお互いのがんばりを認め合う場とする。			②		発表の様子	国語科 学級活動
	6 学習を振り返ろう(4) ○1年間の学習を振り返り、どんな力がついたのかを確認する。 ○今後の取り組みについて考える。(卒業式で決意を述べる)	・育てようとする資質・能力及び態度の視点に基づいて自己評価させる。 ・学んだことがこれからの生き方に生かせるよう、今後心掛けることや取り組むことを考えさせる。				① ②	わかばマップ ワークショップ	

3. 学習活動の実際

(1) 学年テーマを決めよう

学年テーマを決めるにあたっては、児童の前年度までの学びや現在の興味・関心などをもとにテーマを設定するよう心がけた。

昨年の12月に行った学校分離に向けたPTA主催のイベントの収益金をもとに、ラオスのポンタン村に小学校を建設することとなった。その懸け橋となっている方に話を聞いたことがきっかけとなり、ポンタンの友達に対する興味・関心が高まった。児童は5年生で、地域を中心とした学習により、地域に住む人々のよさに目を向けるようになった。今年度は、ポンタン小学校に関する人たちとの出会いをきっかけに、家族・友達・地域の人々・世界の人々のよさに目を向け、そういった人たちと共に生きることについて考えていくことを確認した。テーマは「共に生きる」とした。

(2) 共に生きる（共通体験）

児童が本気で追究したいと思うような課題を設定するためには課題意識の醸成が大切であると考え、共通体験の段階では、様々な出会いを設定することと十分な時間を確保することを心がけた。共通体験においてゲストティーチャーとの出会いを設定するにあたっては、一つ一つの出会いのねらいを明確にすること、ゲストティーチャーとの事前の打ち合わせによりねらいの共有を図るようにした。

初めは、ポンタン小学校建設の懸け橋となっているアジア教育友好協会（AEFA）の方との出会いを設定した。小学校の着工式の様子を見ることで、ポンタン小学校は自分たちの学校とは比べものにならないほど小さくて、簡単な造りであることを知ったり、手紙や絵などのプレゼントを受け取ることで、ポンタンの友達がとても喜んでいることを知り、もっと喜ばせたいという思いをふくらませたりした。その後、ラオス人留学生と出会い、ラオスの国情やその生

き方を学んだ。さらに長年ラオスとかかわっている絵本作家の安井清子さんとの出会いを設定した。安井さんと出会い、モン族の児童たちの生活の様子のビデオを見ることで、ポンタンの友達の生活の様子を具体的にイメージすることができた。自分たちにできることが分かるなど、これまでの疑問を解決することができたと共に、電気も水道もない中でも、児童同士仲良く楽しそうに手伝いをしている様子は、これまでの自分の生活を見つめ直すきっかけとなった。修学旅行ではラオス大使館を訪問してポンタンに対する理解をさらに深めたとともに、アジアの児童たちとかかわる音楽家やラオスの放送事業にかかわった方とも出会い、生き方に触れた。

夏休み前には、これまで出会った方々の生き方に共通していることについて考えた。「誰かのために何かをしている（役に立っている）」ことが分かったので、夏休みを活用して、「誰かの役に立つこと」に取り組んだ。夏休み後の振り返りでは、「今まで家の手伝いが続かなかったけれども、続けられるようになった」「人の役に立って感謝されたので気持ちよかった」といった成果が見られた。今後も継続して「誰かの役に立つこと」に取り組むことを確認した。

(3) 見つめよう！これまでの自分（課題設定）

共通体験では様々なゲストティーチャーと出会い、「人の役に立つ人間なる」「一期一会の気持ちをもって人と接する」「日々の努力を欠かさない」「常に使命感をもって仕事をする」「夢をあきらめない」といった生き方に触れた。また、出会った方々に共通していることとして「誰かの役に立っている」ことが分かり、それに取り組むことで、誰かの役に立つことの喜びや難しさを感じた。これまでの自分の振り返りでは、生き方に関するキーワードをもとに自分を振り返ったり、よいところを友達と見つけ合ったりして、自分のよいところと足りないところを自覚していた。そこで、課題設定にあ

たっては、まず、共通体験で出会ったゲストティーチャーの中で印象に残った生き方や自分が憧れる生き方を考えた。次に、自覚した自分のよいところをこれからの生き方にどう生かしていくのか、足りないところをどう克服していくのかについて考えた。それらをもとに、これから自分はどんな生き方をしたいのかという個人課題を設定していった。思うように課題を設定できない場合は、対話により児童の思いを引き出すことを心がけた。

課題設定後は、自分が憧れる生き方に向けて努力している大学生の生き方を参考に、課題解決に向けて取り組む活動内容について考え、計画を立てた。

(4) 考えよう！これからの自分（課題追究、まとめ）

課題追究にあたっては、課題に迫るための取組を考え、それを学校や家庭において実践し、振り返りにより自分の気持ちを考えたり、自分の変容に気付いたりすることを大切にしたい。取組を続けているうちに、思うように続けられない児童やマンネリ化した児童が見られるようになったので、児童の意欲が継続するよう先生や下級生、地域の方に認められる場を設けた。

また、取組の自己評価を掲示することにより、友達同士で取組を共有した。さらに、グループ



グループ同士の話し合い

での話し合いを通して、取組を認め合ったり励まし合ったり、取組に対してアドバイスし合ったりした。友達とのかかわりをもつ活動を意図的に取り入れ、それを通して取組を見直したり工夫したりするなど、協同的な学びにより、学習の質を高めることを心がけた。

学習をまとめるにあたっては、課題解決のためにこれまで自分が取り組んできたことを一覧

にして振り返った。日々蓄積してきた取組の自己評価を数値化し、折れ線グラフに表すことで自分の成長を自覚した。また、身近で取組を見ている家族や友達からメッセージをもらうことを通して、自分の変容に気付いた。

(5) 考えたことを発表しよう

自分がまとめた冊子をもとに、印象に残った出会い、課題と設定理由、自分が成長したと思うところ、今後心がけたり取り組んだりした



発表会の様子

いことなどを発表した。1年間苦労しながらも、話し合ったり励まし合ったりし

ながら継続してきた学習だったので、共に認め合う場としての発表会となるよう心がけた。

(6) 学習を振り返ろう

まとめた冊子をもとに、卒業式で決意表明をした。自分が目指す生き方、その生き方を実現するために心掛けることや取り組むことを考



卒業式の様子

えた。卒業式では、「私は自分から人の役に立つことをする大人になります。そのために、進んで手伝いをするに取り組んできました。これからも手伝いの取組を続けていき、自分の意見や感謝の気持ちを言葉で表すように心がけていきます。」「私は困っている人を笑顔にできる大人になります。そのために、家の手伝いを積極的にすることと、いつでも笑顔でいて周りの人を明るくすることに取り組んでいきます。」といった言葉で決意表明をした。一人一人の児童の言葉とそれを語る姿に1年間の大きな成長と自らの生き方を考える姿を見ることができた。